

令和2年2月定例会 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会の概要

日時 令和2年3月10日(火) 開会 午前10時 1分
閉会 午前11時

場所 第1委員会室

出席委員 須賀敬史委員長
白土幸仁副委員長
松井弘委員、飯塚俊彦委員、永瀬秀樹委員、梅澤佳一委員、
小林哲也委員、柿沼貴志委員、鈴木正人委員、山根史子委員、
木村勇夫委員、萩原一寿委員、高橋稔裕委員

欠席委員 なし

説明者 [教育局]
小松弥生教育長、萩原由浩副教育長、
佐藤裕之教育総務部長、渡邊亮県立学校部長、関口睦市町村支援部長、
古垣玲教育総務部副部長、日吉亨県立学校部副部長、
芋川修県立学校部副部長、石井宏明市町村支援部副部長、
依田英樹市町村支援部副部長、金子功県立学校部参事兼市町村支援部参事、
岡部年男総務課長、加藤健次教育政策課長、
島村克己財務課長、石川薫高校教育指導課長、竹井彰彦特別支援教育課長、
八田聡史義務教育指導課長、横松伸二生涯学習推進課長、
案浦久仁子文化資源課長
[県民生活部]
大浜厚夫県民生活部副部長、浅見健二郎文化振興課長
[福祉部]
本橋仁障害者福祉推進課副課長

会議に付した事件
文化の振興について

柿沼委員

行田市からは、文化財が結構いろいろと出ていて、さきたま史跡の博物館もあり、日本遺産にも認定されている。これは、埼玉県初でもあり、今回、重要有形民俗文化財で足袋にも光が当たっている。これには予算は付いていないが、この流れの中で、具体的にどう生かしていくのか。

文化資源課長

埼玉古墳群は、本日正式に特別史跡となり、もう一つの足袋については、現在、答申を頂いているところである。行田市については、大変多くの貴重な文化財があると認識している。一方で、文化財については、非常に地域を元気にする力があるというような認識は、私どもにもあり、この4月に施行された改正文化財保護法においても、そうした文化財の持てる力を活用するという点においては、文化財が持っている力で地域を元気にする、あるいは観光客を呼んでくる、などいろいろな力があるということは、保護法の改正の中でも言われている。委員が言うように、行田市については、埼玉古墳群、足袋という貴重な資源がある。そのようなものを活用して、地域の方とともに、どのような文化財を活用した地域を元気にする取組ができるか、マンパワーにはなるが、取り組んでいきたいと思う。

柿沼委員

マンパワーということで、期待したいというところではある。しかし、行田市に来ていただいた方は分かると思うが、これからオリンピックもある中で、食事をする所もなく、土産を買う所もなく、古墳があるだけという状況が行田市ではずっと問題視されている。その辺りも含めて、県の方でも、来ていただいた方がまた来たいと思えるような計画を立ててくれるとありがたいと思うが、何か考えはあるのか。

文化資源課長

一度に全部を変えるということは難しいと思っている。ただ、先ほど説明した、マンパワーで実施する事業の中で、例えば、地域の方と一緒に古墳グッズの開発をしたり、地域のお菓子を作ったり、パッケージに埼玉古墳群の写真を貼ったり、いろいろな取組を地道に繰り返していくことにより、地域も古墳、文化財を使って地域を盛り上げていくような機運を作れる。私どもも専門的な見地などを活用して、同伴するとともに、後ろからしっかりサポートをしていきたい。

柿沼委員

後は、次世代に継承していくことも戦略の中にあるが、その辺の考え方はいかがか。

文化資源課長

現在「博学連携」という考え方において、博物館と学校の連携、というような取組も実施している。その中で、行田市の小・中学校の生徒が、その事業の中に参画をして、行田市にある様々な地域の資源について、学校の授業の中で学んで、それを地域に還元していく。例えば、学んだ内容で、博物館の展示の解説を一般の方に行うというようなことを実施している。また、先ほども少し説明したが、資料2ページの一番下に「もっと知りたい埼玉古墳群」という項目があるかと思う。こちらは、古墳を全部回らなければ解けないようなミッションを「なぞ解きゲーム」として実施している。そこに、小中学生が参加して、必ず古墳を歩いて回らなければミッションが解けないようなものを作り、子供たちにしっかりと地域の魅力を理解してもらえるような取組も、引き続き実施していきたいと思って

いる。

飯塚委員

- 1 戦略2の蜷川レガシーの継承と新たな展開は、1億751万5千円と1億円を超える金額だが、大まかな内訳はいかがか。
- 2 101匹の埼玉狛犬の企画は、なぜ、狛犬をテーマにしたのか。

文化振興課長

- 1 この蜷川レガシーの継承は、蜷川さんが残した取組を支援するもので、合計で1億円超の予算がついているが、おおむね、シェイクスピアシリーズの制作に半分程度かかっている。残りは、「CITY」、「蜷の綿」、「朝のライラック」等の制作に要している。

文化資源課長

- 2 狛犬は、県内全域で、誰でも見られる身近な場所にある。造形的にも非常に面白い狛犬もある。中には犬でないものもあり、若い世代をターゲットにした取組であることから、写真に撮って、SNSに上げていくと、非常に「インスタ映え」することで、評判を呼んだところである。そのような、興味を喚起させ、かつ、地理的にも、いろいろなところに狛犬はあるので、狛犬を選んだ。

飯塚委員

半分以上が制作費にかかるということだが、後ほど、制作費の内訳を教えてください。
また、狛犬というと神社仏閣にあるようなイメージで、インスタ映えすることも分かるが、なぜ狛犬なのか。他にもインスタ映えするものがあると思うが、狛犬以外のものは候補に挙がらなかったのか。

委員長

委員会としての資料要求として、控室に配布するようお願いする。

文化資源課長

狛犬については、インスタ映えをするというような、キャッチーなテーマであったということ以外にも、例えば、地域の方に大切にされて、氏子や商人・町人などの庶民からの寄進が主流であるという歴史的、社会的な背景なども踏まえ、テーマを選んだ。また、狛犬にするかどうかの検討の中で、他のテーマも挙がったが、今申し上げた理由で狛犬を選んだ。毎年このような取組は続けていきたいと思っており、来年度は巨樹、大きな木をテーマに実施をし、自然の部分にもフォーカスしていくような取組にしたいと思っている。

萩原委員

- 1 資料に、それぞれの取組の予算が出ているが、全体的な予算はどうなっているのか。国では文化芸術基本法が制定されてから20年程度経過し、ほぼ毎年予算が増額されている中、県の予算はどのような推移になっているのか、また、方向性はいかがか。
- 2 資料2ページ右下の、川の博物館についてだが、私の地元の川口からも利用されている方がいて、非常に評判も良い施設である。今回の大水車改修に至った理由は何か。
- 3 資料4ページ目の右側、戦略4の埼玉県高等学校総合文化祭はどのような大会なのか。参加者数、大会の目的は何か。また、次世代の育成について言われているが、大会によってどのように育成につなげていくのか。

文化振興課長

- 1 年度により施設の改修工事を行うこともあり、若干の変動があるが、教育委員会も含めた県の文化事業予算は、平成23年度が約29億、24年度が約30億、平成25年度が約29億と、おおむね29億円で推移しており、28年度に32億円、令和元年度は31億となっている。オリンピックに向け、文化プログラムを実施するなど、その時々によって必要な予算を要求し、予算は概ね29億、30億程度で推移している。

文化資源課長

- 2 大水車については、老朽化によって木材にゆがみが生じ、水輪のスムーズな回転などが阻害され、危険性があつたため改修に至つた。

高校教育指導課長

- 3 高等学校文化連盟に加盟している学校は190校あり、そのうち県立高校は139校、加盟生徒数は27,920人で、そのうち県立高校は19,880人となっている。埼玉県高等学校文化連盟に加盟する書道やかるた、吹奏楽など18の専門部会が1年の間に、それぞれ日頃の活動の成果を発表している。令和元年度には、6月に開会式と全国高等学校総合文化祭の壮行会を開催した。具体的には、合唱や吹奏楽の部会などは各地区で音楽祭を開催し、書道部会は近代美術館で高校書道展を開催している。また、囲碁やかるたのように大会を開催している部門もある。

萩原委員

- 1 川の博物館については、昨年の台風第19号で被害があつたと聞いている。非常に評判の良い施設であり心配しているが、被害額や復旧の状況はいかがか。
- 2 埼玉県高等学校総合文化祭を行うことによって、どのような人材育成、次の時代を担う人材を育てていくのか。

文化資源課長

- 1 被害の状況を金額的には出してない。仮オープンを11月14日以降に実施したが、観覧者数は、昨年度の同時期と比較して、92.7パーセントに落ち込んでいる。一方で、マスコミ等に取り上げられた効果だと思うが、有料の入館者が増加しており、こちらは25パーセント増になっていることから、予算的な部分での落ち込みは思ったよりも少ない。観覧者数が相対的に減っていることが、一番の大きな被害であると思う。復旧に向けては、現在、駐車場など比較的早めに対処できる部分について、復旧を進めているところである。一方で、電気施設の修繕や多くの小さい子供が利用する「わくわくランド」については、工事の時間が少しかかっている。「わくわくランド」は夏場に多くの子供が来る所なので、夏に間に合うよう、現在、努力をしている。

高校教育指導課長

- 2 それぞれの活動が全国高等学校総合文化祭につながっている。今年度の成果は、新聞部門で不動岡高校が最優秀賞、自然科学部門で浦和高校が最優秀賞、書道部門で大宮光陵高校が文化庁長官賞等を受賞している。このような様々な大会を通して、生徒たちが日頃の成果を発表し、お互いに認め合ったり、切磋琢磨しながら、より一層文化について理解を深めることで、高校生の健全な育成につなげている。

財務課長

- 1 被害額について補足をする。被害額そのものではないが、昨年の12月に認めていただいた復旧の経費の金額は、3億6,300万円ほどである。これに、既定経費等も活用しながら、早急な復旧に向けて努力をしていきたい。

永瀬委員

- 1 2ページの文化振興基金の活用による資金助成について、3つに分かれて交付しているが、予算の956万3千円の根拠は何か。また、交付を決定する基準は何か。
- 2 指定を受けた文化財について、今後の保存と活用をどのように考えていくのか。
- 3 今後、国指定の文化財に指定・答申されていく可能性のある文化財はどれくらいあるのか。
- 4 5ページの埼玉芸術文化祭2019について、予算が15,108千円とある。事業が3件に分かれているが、それぞれの内訳はいかがか。

文化振興課長

- 1 毎年900万円ぐらいの予算で実施している。基本的な考え方について、財源は文化振興基金が原資となっている。運用益が減少し、基金の残高が減少傾向にあるため、長く多くの団体に助成していきたいという考えで予算額を考えている。3つのメニューでおおむね60件程度の助成ができるぐらいの予算を要求している。採択の基準は、応募後、外部の専門家による審査委員会で、厳密に審査している。審査の基準は、確実に実行できるかどうかの「実現性」、県が補助するのにふさわしい内容かどうかの「事業内容」、適正な経費で実施されるかどうかの「経費の適正さ」、今後の継続・発展が期待できるかどうかの「事業効果」の4点を基本に審査を行い、採択を決めている。

文化資源課長

- 2 県全体の保存・活用の在り方については、現在は案ではあるが、「埼玉県文化財保存活用大綱」で県にある文化財全体の保存・活用の大きな方向性を示している。各市町村、地域は、この大綱を受けて、地域計画というものを作っていくことになる。1つ1つの指定文化財をどのように活用していくのかについては、まず地域がその文化財をどのように活用していくのか、ということその計画の中にしっかりと盛り込んでいくことが必要になると考えている。また、県はその計画を策定するに当たり、学術的な部分や市町村によっては学芸員の数が少ないところもあるので、そうしたところをサポートをしていきたいと考えている。
- 3 国の指定については、県ではどのような動きになっているのか、通常は把握していない。国が調査、指定をするため、県では分からない。

文化資源課長

- 4 地域文化事業については、約150万円、県展については、700万円である。資料には記載がないが、文化団体とのイベントマッチング事業を新しく始め、その事業が174万円、芸術文化ふれあい事業という子供たちに芸術家を派遣する事業が200万円などとなっている。

永瀬委員

- 1 埼玉県文化振興基金の活用による資金助成について、長く広くという考え方は分かる。文化振興そのものは、文化芸術に触れる、または従事する人を増やすという大前提に立てられているが、この考え方だけでは若干の不足があると考え。財源になる文化振興基金の問題もあるということだが、他の財源も考えながら、資金助成による文化振興が成り立つのではないか。
- 2 国指定文化財の保護については把握していないとのことだが、国が何を考えているのか分からないというのは理解できるものの、県として、県内の価値のある文化財については把握しておく必要があるのではないか。これらを把握をする考えはあるのか。

文化振興課長

- 1 文化振興基金は限りがあるため、有効に使わなければならないということが前提だが、今後、文化団体などの意見、考え方、要望などを把握しながら、どのように年間の助成を配分していくかを検討していきたい。オリンピックに向けて文化プログラムの認証を受けた事業が県内には多くある。オリンピックまでの期間限定ではあるが、文化プログラムの認証を受けた事業への助成も行っている。現状では、文化振興基金を活用した助成に加えてオリンピックを盛り上げるための文化プログラムの助成があるので、さらに多くの方に助成できる状況ではある。

文化資源課長

- 2 現在、県の指定文化財は694件ある。この中から国指定にランクアップしていくものがあると、私どもも大変嬉しく思う。また、国の調査官などが埼玉県を訪れ、県の文化財について案内してほしいといった話をもらうことがよくある。それがどのような理由なのか、何のために来るのかについては、よく分からないが、その際には、文化庁の担当官に埼玉県の文化財の魅力などをしっかり伝えていきたいと思う。

小林委員

教育長に伺う。私自身若かりし頃、青年会議所というまちづくりをする団体に所属していた。その時にまち・地域、ここでは埼玉県という大きな地域になるが、発展していくためには、「若者、ばか者、よそ者」という方たち3人の力が必要だという話を聞いた。若者の情熱であったり、ばか者の一生懸命がむしゃらさだったり、外から見た方の知恵というものが必要不可欠であると思っている。総論の話になるが、埼玉県の文化全体を外の目で見た時の、埼玉県の文化全体のポテンシャルをどう感じているのか。その上で、この文化を通して、埼玉県の発展というものがどうなるのか、その可能性についての思いは何かか。

教育長

ポテンシャルだが、劇場も、ミュージアム施設は昔からたくさんあり、図書館も複数ある。あと文化財とか、様々な県民の活動というのは非常に豊かにあると思う。ただ、豊かにあるものを、県民自身がそれほどすごいことだとは思ってはいないようなところは見受けられた。「翔んで埼玉」ではないが、なんとなく自分たちで地味なんじゃないかと思っているところがあるのではと感じている。また、特に、若い世代を中心に東京へ出て行きやすいという地理的状況があるので、大都会の方に目が向いてしまうところはあるのかと思う。それを、私は地元に戻したいという思いがあり、今日の資料には出ていないが、地域の魅力を、もっと若者も含めて見直していくということで、「地域学」のようなものを作ってはどうかという提案をしている。これは、「学校地域win-winプロジェクト」という別の事業の中から出てきているが、「小川学」という、小川地域の、和紙だけではなく良い文化がたくさんあるが、そういった古い伝統的なものから、例えば、最近のアニメの聖地など、現在、将来のものを含めて「小川学」というものを作ってはどうかという、持ち掛けをして、それが走り出しているところである。さらに、先ほど、行田の質問があったが、行田も「小川学」のことを聞いて、「行田学」というのを小・中・高、大人も含めて作りたいと言っているので、そうした地域ごとに、市町村単位やもっと小さい単位でその地域を見直そうという動きが少しずつ出てきている。そこから、もっと埼玉の魅力発信ということが出てくるのではないかと思っている。加えて、先ほど狛犬の質問があったが、今まで気が付いていないものもたくさんあると思っている。気が付いていないものも、それはよそ者の目も必要かと思うが、やはり地元の人たち自身が、気が付くということが大事だと思っており、地元の人たちに、お金を掛けずに気が付いてもらえるような仕組みとして、インスタを使って、そのような資源を発掘するという手法も開発した。それは、

先ほど巨樹に展開するという話があったが、いろいろなものに使えると思う。県だけでなく民間でもできると思うし、そうしたことを県主催だけではなく、いろいろな人がやり始める。狛犬については、本を作ってもらえるということで、予算ゼロで始めた事業だが、いろいろな方の力を借りることによってどんどん波及していく。そういう波及効果が出てくれば、より埼玉県民が自分自身で埼玉の魅力を発見して、いろいろな人がそれに寄ってたかってきて、そして、それをすごいなと思った他の地域の人たちが埼玉県に入っていくという将来像を私は描いて、いくつかの仕掛けをしてきた。これからも何らかの形で関わっていきたいと考えている。